

未知との出会い！ 海岸漂着物 はキレイで不思議？



海岸漂着物とは？

海岸は、海と陸の2つの異なる世界の境界にあります。そのため、海岸には、それぞれの世界にある、さまざまなものが流れ着きます。これらをまとめて、“海岸漂着物”といいます。

海岸漂着物と聞くと、世界中で問題となっているペットボトルやビニール袋などの海洋プラスチックをはじめ、日用品や漁具などの“人工物（海洋ゴミ）”をイメージされる方が多いと思います。これらの海洋ゴミは、私たちが住んでいる北海道はもちろん、人が住んでいない地域の海岸でも見つかることから、もはやゴミの無い海は存在しないと考えられます。

一方、海岸では、貝殻、海藻、流木、石や鉱物などの、本来あるべき“自然物”も見つけることができます。その中には、とてもキレイなお宝のようなものや、見たこともない不思議なもの、海流に乗って遠い場所から運ばれてきたものも見つかります。海岸漂着物は、汚い！ゴミ！という印象が強くなってしまいました。しかし、よくよく調べてみると、環境のことや私たちの生活を考えるきっかけになったり、日常では出会うことのない、未知との出会いの機会にもなります。ここでは、そんな漂着物の一端をご紹介します。

人工物（海洋ごみ）



- ① 多種多様なプラスチック
- ② 容器包装プラスチック
- ③ マスク
- ④ 漁具

自然物



- ① シロザケ（秋サケ）
- ② トド
- ③ ハスノハカシパン（ウニの仲間）
- ④ コハク

絶対に触らないように気をつけましょう！

薬品を入れるものや注射器、毒のある生物や動物の死骸など、危険なものが漂着することもあります。触らないように注意しましょう。



- 劇薬が入ったポリタンク
- 注射器
- 鳥の死骸

南の海から北海道にやってくる生き物！

北海道日本海側には、南から北上する対馬暖流があります。この海流に乗って、遠い南の海からさまざまなものが流れ着きます。



- アオイガイの殻
- コウイカの甲
- ココヤシ